

# 会山行報告書

通算山行 no	No. 274A	報告者	長岡浩一
年月日	2004年3月13日(土・晴→雪)	2万5千円=高妻山	
山名	乙妻山(2318m)		
体力度=5(日帰りは結構大変) 技術度=5(上部のシール登行が問題) 危険度=4(滑落など) 自然=3月は天候の激変			
<b>日帰りの乙妻山はハードそのもの</b>			
コースと タイム	起床4:35-戸隠大橋5:00-尾根取り付き5:50-佐渡山鞍部6:45-氷沢川7:10-乙妻山11:05~30-氷沢川12:30-佐渡山鞍部14:00-戸隠大橋15:20-白馬柵池(泊)		
標高差	上り=戸隠大橋:1140m~佐渡山のコル:1580m=約440m =氷沢川:1440m~乙妻山:2318m=約878m =氷沢川:1440m~佐渡山のコル:1580m=約140m 計=1458m 下り=上りと同じ		
参加者 ひと言	後藤隆徳(57)=厳しい山だった。でも、一人はちよつと寂しかったね。 長岡浩一(44)=情け無いのひとこと。ハードな山行するには、2週に一回は山へ行かないと体力の維持ができない。 加藤秀子(54)=やっちゃいました！まさかの「スキーを忘れるなんて」(トホホ)こんなこともある？！(あるある！) 池田幸子(54)=なかなか、思う様に滑れませんでした。		

富士インターで秀子と浜松労山の池田さんが合流。日曜日私は仕事で先に帰るため、2台で出発。予定していた万太郎～毛渡沢は、天気がいまいちの為、乙妻山に変更。上信越道信濃町インターを降り、戸隠大橋を過ぎたドライブイン付近でテン泊。秀子がスキー板を忘れてきたことに気付き大騒ぎとなる。軽く一杯やり寝た。

戸隠大橋の駐車場では、2台の車がいて出発するところであった。ヘッドランプで支度をし我々も後を追う。黒姫山へ向かう林道に行く。雪はガジガジに凍っていて、秀子はアイゼンのツボ足だが、ほとんどもぐらない。途中林道は左へ分かれるが、まだ暗く雪原になっていてわかりにくい。すぐ橋を渡り緩く登っていく。

スノーブリッジになった所で川を渡り、急斜面の登りとなる。佐渡山と1678mピークとの鞍部への尾根だ。ようやくヘッドランプをしまう。ジグザグに樹林の中に行く。尾根を忠実に行って、鞍部の佐渡山寄りに出る。風無く好天。高妻山が戸隠スキー場の方から見るピラミッド型と違い、横に広い。

シールを外し、私とタカノリは先行する。カリカリの佐渡山南西斜面をトラバースしながら高度を下げ、3つ沢を横切り、川へ下りる。硬い片斜面で左足が疲れた。再びシールを装着し、渡れそうなスノーブリッジを探して対岸へ渡る。そこには、地図に無い林道が通っていた。後続はどの辺かとタカノリがホイッスルを吹くと、すぐ下の河原で秀子の声。ええっ、速い！スキーの池田さんより速い。ここで池田さんを待ち、引き返すとのこと。

崩壊地を過ぎて、林道から左の広い谷間へ入って行く。乙妻山北東斜面が見えてきた。地



図を見るとなかなか手強そうな斜面だが、とてもなだらかに見える。しかし、登るに連れ、地図通りの傾斜となってくる。風も出てきて、頂上に雪煙が舞う様になってきた。オーバーズボンをはく。

タカノリは歩くのも速いが、支度も速い。支度の遅い私は、置いていかれるがいつも徐々に追いつく。しかし今日は少しずつ離れていく。最近ハードな山行をしてないし、前回の山行から3週間あけてしまった。足がなまってしまっている。

スキーアイゼンを効かせて登るが、硬い急斜面でそれも厳しくなってきた。右ストックは手首に縛っただけなので、踏ん張りが効かず、怖くなってきた。キックターンはとても怖い。大きな岳樺のどこまで来ると、タカノリが階段下降で下りてきた。斜面が硬くてルート変更している。私にはシール登行は無理だと考え、板をザックに着けアイゼン装着。ところがスキーでは硬い雪面も、つぼ足ではクラストが割れて膝下までもぐる。思い切り踏ん張ったところで割れる最悪のクラストのラッセル。スキーの威力を改めて感じる。

時々背中が風にあおられ、バランスを崩す。雪粒のビンタもくろう。一人ラッセルは進まず、登頂はあきらめる。57歳のタカノリに44歳の私が負けて悔しいったら。しかし、タカノリが下りてくる迄は登り続けよう。頂上は猛烈な風が吹いている様で雪煙の動きがとても速い。妙高・火打が見えていたのに、急速に天候が悪化してきて、時々ガスに包まれる。行き違っただけで困るので、左を気にしながら登ると、左下150m位にいた。お互い確認し、滑降に移る。2150m位かな。悔しいが、登頂記はタカノリにバトンタッチ。

滑り出すと、どうやって降りようかと思うほど足が疲れている。吹雪になってきた。途中から最中雪に苦勞し、へろへろで林道に着く。途中1パーティすれ違っただけだったが、林道には10人位いたか。皆撤退のようだ。

シール装着。ベチャ雪が降る中、川に沿って佐渡山側斜面を鞍部をめざし登り返すが、だるいのなんのって。鞍部でやっと登りから開放され、滑降。尾根の雪は、クラストが緩んでまあまあ滑りやすかった。朝渡ったスノーブリッジの所で、ビールで乾杯。情け無い気持ちで飲むビールは・・・、でもやっぱりうまかった

## 後藤の記録・・・

浩一は不調なので飛ばす。で、ないと誰も上れなくなる。上部はカチカチの斜面で厳しい上りだった。乙妻山に上るのに、本来は高妻山とのコルから行くが、時間も無いので直接、頂に向かう。傾斜が強く、風はますます凶暴になってきた。果たして上れるか一抹の不安が去来する。岳樺・這松を掴み、かじくり上る。物凄い風が咆哮する。

カチカチの斜面で後ずさりしたり、ふくらはぎがギリギリのパフォーマンスを繰り返す。やっと、向こうの景色が見えると乙妻山は目前だった。

帰りは更に厳しい上り返しだった。が、峠からの滑降はゴキゲンでした。

乙妻山目指して



210m

後ろは妙高山

浩一の滑り





千代田県	香取郡	大物原は強風で雪程が青い上か	NO. 574A	on 7 山 景 画
千代田県	香取郡	大物原は強風で雪程が青い上か	(都・日) 日 4 7 月 8 年 4 0 0 2	日 月 年 月
千代田県	香取郡	大物原は強風で雪程が青い上か	別原村の山 (m 4055) 順 向 天 黒 白	谷 山 谷

